

薬草教室だより

平成 29 年 4 月 11 日発行 第 1 号

東京都薬用植物園 〒187-0033 東京都小平市中島町 21-1 Tel042(341)0344

江戸の人が野草から育てた さくらそうの楽しみ

さくらそう会世話人代表
鳥居 恒夫

とりい・つねお

1938（昭和 13）年、愛知県生まれ。

「さくらそう会」世話人代表。

東京都立神代植物公園、夢の島熱帯植物館などに勤務後

植物・園芸研究家として普及活動に従事。

60 歳から始めた植物スケッチはもうすぐ 5000 枚を数える。



◀鳥居さんが名付けた「山下白雨」は葛飾北斎の「富嶽三十六景」より。品種名の由来を知るのも楽しみのひとつ。

とりい・つねお

1938 (昭和13) 年、愛知県生まれ。「さくらそう会」世話人代表。東京都立神代植物公園、夢の島熱帯植物館などに勤務後、植物・園芸研究家として普及活動に従事。60歳から始めた植物スケッチはもうすぐ5000枚を数える。



父の影響もあり、幼少のころからあらゆる草花に親しんできました。中学に入ると「さくらそう会」の会員になり、苗を譲り受けて育てましたら思ったとおりの美しい草花でした。以来、共に迎えた春は、正確に数えると六十三回になります。戦争の時代に物心がつき、平和な

さくらそう会

1952年、愛培家が桜草の苗を持ち寄り、保存と普及を目的として設立。会が認定した300品種以上を『色分け花図鑑 桜草』にまとめた。会員は全国に約300人。

時代に成長した私は、幸せなことにこうして植物にかかわる仕事をして生きることができました。

桜草は日本産の野草です。江戸時代には、高原から流されて荒川の下流に育ったものを江戸の人々が持ち帰り、改良を重ねて楽しんだようです。その後、震災や戦災で絶滅の危機に瀕しましたが、愛培家が力を尽くし、江戸を起源とした唯一の園芸植物の楽しみをつなぐことができています。

日本の園芸の特徴は三つあると思います。庶民も身の丈に合わせて楽しんできたこと。葉っぱも含めてあらゆる植物



桜草と六十年

鳥居恒夫

「ラジオ深夜便 誕生日の花と花ことば」監修者で、本誌に「ひと花いち話」を連載中の鳥居さんに、満開の桜草の中でお話をうかがいます。





を対象にしてきたこと。そして観賞法にまでこだわること。桜草の場合は、組み立て小屋に鉢を並べる観賞法が江戸時代から伝わっています。写真の棚を見てください。どの鉢をどの場所に置くか、色や花の向きを考えながら苦心するのですが、決まるとまるで、舞台上見得を切っている

ような。間違えます。私はもっぱら消費者の側で楽しみとして花を作り、育てることをいちばんの喜びとしてきました。四季折々の花を育てるのに特別な設備や技術はいりません。育ててやろうとしないで、持っている性質そのままに育てればいいのです。ここにある鉢はどれも無理がないでしょう？ なんていっても、かわいらしい。それが桜草なんです。



神代植物公園（東京都調布市深大寺元町5-31-10 ☎042-483-2300）での展示会（毎年4月中下旬）は50回を超えた。



自宅庭にしつらえた桜草花壇。間口1間、5段の棚に彩り良く陳列する。庭に並ぶ14,1500鉢以上の桜草は、毎冬、一か月余りかけてすべて植え替える。